

# 地球を 読む

人間は本来、個人として存在するが、ともすると、それだけではバラバラで無力である。そこで個人が仲間と連携して団体を作り、活動することで、時に国を動かすほどの力を持つ。

がんに関する団体は2種類ある。一つは、がん患者が中心となって組織して患者や家族が集うサロンの開催や情報交換などを主に行う「がん患者会」である。



垣添 忠生

日本対がん協会  
会長

## がん患者・家族団体

もう一つは、がん患者の就労など社会的な課題にも取り組む「がん患者・家族支援団体」だ。ただし、区別が難しい団体もある。

団体が組織される背景には、がん患者やその家族が孤立しがちな現実がある。

がんは診断・治療の進歩により、治る病気に変わりつつある。国立がん研究センターの調査では、5年生存率は年々改善しており、今や66%となった。しかし、世の中には「がんは死の病」というイメージがまだあ

る。がんは診断・治療の進歩により、治る病気に変わりつつある。国立がん研究センターの調査では、5年生存率は年々改善しており、今や66%となった。しかし、世の中には「がんは死の病」というイメージがまだあ

る。がんは診断・治療の進歩により、治る病気に変わりつつある。国立がん研究センターの調査では、5年生存率は年々改善しており、今や66%となった。しかし、世の中には「がんは死の病」というイメージがまだあ

る。がんは診断・治療の進歩により、治る病気に変わりつつある。国立がん研究センターの調査では、5年生存率は年々改善しており、今や66%となった。しかし、世の中には「がんは死の病」というイメージがまだあ

## 孤立を防ぐ 支援の輪

り、患者らは強い疎外感にさいなまれる。

そこで、患者と家族を孤立させないために、彼らに寄り添い支援することが世界的な潮流となっている。その主人公となるのが「がん患者会」や「がん患者・

り、患者らは強い疎外感にさいなまれる。

そこで、患者と家族を孤立させないために、彼らに寄り添い支援することが世界的な潮流となっている。その主人公となるのが「がん患者会」や「がん患者・

り、患者らは強い疎外感にさいなまれる。

そこで、患者と家族を孤立させないために、彼らに寄り添い支援することが世界的な潮流となっている。その主人公となるのが「がん患者会」や「がん患者・

り、患者らは強い疎外感にさいなまれる。

そこで、患者と家族を孤立させないために、彼らに寄り添い支援することが世界的な潮流となっている。その主人公となるのが「がん患者会」や「がん患者・

# 地球を 読む

1面の続き

垣添忠生氏 1941年生  
東大医学部助手などを  
経て国立がんセンター病院勤  
務。手術部長、院長、総長、  
名誉総長を歴任。2007年  
3月から現職。

次に我が国の「がん患者  
・家族支援団体」の活動を  
見てみる。規模も性格も様  
々であるが、そのいくつか  
を紹介したい。

私が会長を務める公益財  
団法人「日本対がん協会」  
は1958年に設立され  
た。参加者が24時間にわた  
って交代で歩き、患者への  
支援を訴えるチャリティー  
イベント「リレー・フォー  
・ライフ（命のリレー）」  
の全国各地での開催や無料  
電話相談など、活動は年々  
拡大している。

検診機関でもある。年間予  
算は約6億円だ。

そのほか、①科学的根拠  
に基づく正確な情報を発信  
するため、フォーラム開催

どがある。

がん患者会の活動資金の  
一部を助成する公益財団法  
人「正力厚生会」もある。  
読売新聞東京本社からの寄  
付金などで運営されてい  
る。以前は福祉施設への車  
いす寄贈などを行っていた  
が、2006年度から、が  
ん患者や家族への支援に重  
点を置いている。

がん患者の活動にはかなり  
重なり合う部分もあること  
から、各団体が共通のプラ  
ットフォームに加わって対  
がん活動としての大きな絵  
を描くことが今後の重要な  
テーマといえるだろう。

という方向性は同じだ。  
各団体の活動にはかなり  
重なり合う部分もあること  
から、各団体が共通のプラ  
ットフォームに加わって対  
がん活動としての大きな絵  
を描くことが今後の重要な  
テーマといえるだろう。

海外の「がん患者・家族  
支援団体」は患者会同様、  
パワフルな団体が多い。

日本でも講演会やライ  
トアップイベントなどが開  
催されている。  
UICCに参加する「米  
国対がん協会」は、世界最  
大規模のがん患者・家族支  
援団体だ。全米を六つの地  
域に分けてカバーし、年間  
予算は約950億円。15  
0万人のボランティアを抱  
える。電話相談センターで  
は365日24時間、無料で  
相談に応じている。

## 研究助成や政策提言も

やビデオ・冊子作成など様  
々な活動を行うNPO法人  
「キャンサーネットジャパ  
ン」②難治がんの代表であ  
る膀胱がんの新しい治療情  
報などを積極的に発信して  
いるNPO法人「パンキャ  
ンジャパン」③がん患者や  
家族らが気軽に集まって専  
門家のアドバイスを受けれ  
る場を提供するNPO法  
人「マギーズ東京」――なる。

団体により新薬の承認を  
目指す治験情報の紹介を重  
視したり、患者・家族に交  
流の場を提供したりするな  
ど、力点の置き方が違う。  
情報発信の仕方も多様  
だ。電話相談や患者が集う  
カフェの開催などで人と人  
を直接つないだり、広く全  
国に情報を届けるためにネ  
ットを重視したりしてい  
る。だが、患者・家族支援

世界約170の国から1  
000を超える団体が参加  
する「国際対がん連合（U  
ICC）」はスイスのジュ  
ネーブに本部がある。参加  
するUICC日本委員会  
はがん研究会や国立がん研  
究センター、日本対がん協  
会などから組織される。

「Patient Health En  
agement（PHE）」  
がある。「患者が自らの健  
康に主体的に関わる」とい  
う意味だ。患者が自分の病  
気を理解し、前向きに立ち  
向かうことが、病気の改善  
や治療成績の向上につなが  
るといふ考え方である。

このPHEという考え方  
に基づき、腎がん患者を支  
援する「国際腎がん連合」  
は、医療関係者らを巻き込  
み、希望を持って生きる患  
者と家族の物語を本として  
刊行したり、世界各地の患  
者・家族支援団体を支援し  
たりしている。

英文はあすのジャパン・ニ  
ューズに掲載する予定です